

生産出荷近代化計画の概要

[野菜指定産地名] 古川

[指定野菜の種別] 夏秋なす

[指定区域] 大崎市

[指定年月日] 平成7年5月30日

[計画樹立年月日] 平成10年5月29日

[計画変更年月日] 令和 3年3月31日

[変更後の計画概要]

○生産及び出荷の近代化に関する基本構想

補助事業の活用によりパイプハウス等の施設導入が進み、半促成栽培を中心に出荷期間が拡大され、長期出荷体制が確立しつつある。今後も、安定生産、作業の省力化及び出荷体制の整備に努め、生産基盤を確立する。

これまでは気象に影響されやすい露地栽培から施設栽培への転換を図ってきたが、生産者の高齢化への対応や安定した取引先確保の必要性等の観点から、加工・業務用向けを中心とする露地の契約栽培についても積極的に拡大し、生産者の所得の安定と向上に努める。また、環境保全型農業の実践等により、消費者が求める安全・安心ななすを生産し、信頼される産地確立を目指す。

生産者の高齢化や規模拡大による労働力不足に対応するため、受粉昆虫の利用や単為結果性品種の活用による栽培の省力化や、コンテナ利用によるバラ出荷（契約出荷）の導入による出荷の省力化を図るとともに、地域内の労働力を有効活用するための方策を検討する。また、生産規模の拡大にともなう法人化等も念頭に、産地の継続と後継者の育成を図る。

○生産出荷近代化の現状と目標

項目	現状 (H29)	目標 (R4)
作付面積 (ha)	36	38
生産量 (t)	559	595
出荷量 (t)	217	287
共販等量 (t)	210	249
共販等率 (%)	97	87
収量 (kg/10a)	1,540	1,550